

第4版

東京の中の

くまもと

細川家
漱石
八雲

えにし
“縁”の地をたどる
～東京の中の熊本関連施設紹介冊子～

発行者：熊本県
所 属：広報グループ
発行年度：令和元年度

熊本県広報グループ

東京の中の
くまもと



©2010熊本県くまモン

第4版

東京の中の

くまもと

細川家
漱石
八雲

えにし
“縁”の地をたどる
～東京の中の熊本関連施設紹介冊子～

発行 者：熊本県
所 属：広報グループ
発行 年度：令和元年度

熊本県広報グループ

東京の中の
くまもと



©2010熊本県くまモン

肥後細川庭園松聲閣	4-5
永青文庫	6
和敬塾本館(旧細川侯爵邸)	7
東京の中の細川家	8-9
丸の内オアゾ(細川家上屋敷跡)	
大石良雄外十六人忠烈の跡(細川家下屋敷跡)	
ホテル雅叙園東京(細川家下屋敷跡)	
戸越公園(肥後新田藩細川家下屋敷跡)	
細川家墓所	
細川家とくまもと	10-11
二様の石垣(熊本城)	
水前寺成趣園(古今伝授の間)	
花畑屋敷(花畑公園)	
旧砂取細川邸庭園(くまもと文学・歴史館)	
泰勝寺跡(立田自然公園)	
妙解寺跡(北岡自然公園)	
新宿区立漱石山房記念館(漱石山房跡)	12
三四郎池(育徳園心字池)	13
夏目漱石誕生の地	13
小泉八雲記念公園	14
嘉納治五郎	15
占春園	
講道館	
東京の中の漱石・八雲	16-17
雑司ヶ谷霊園	
雪女の縁の地	
漱石とくまもと	18-19
夏目漱石内坪井旧居	
峠の茶屋	
石畳	
前田家別邸	
草枕交流館	
八雲(ラフカディオ・ハーン)とくまもと	20-21
小泉八雲熊本旧居	
小峯墓地の石仏	
旧第五高等中学校本館(現 熊本大学五高記念館)	
浦島屋(三角西港)	
熊本地震とくまもと	22-24
銀座熊本館	25
MAP	26-27

東京コネクション



「東京の中のくまもと」について

熊本県は、平成27年10月に、熊本市とともに、新宿区と文京区の4者間で「文化と歴史を縁とする包括連携に関する覚書」を締結し、細川家や漱石、八雲などの共通する文化や歴史を「縁」ととらえ、この「縁」を未来につなぐため、観光や広報などの分野で相互に連携を図っていくこととしました。

平成27年度に熊本県内、東京都内に存する「細川家」や「夏目漱石」、「小泉八雲」関連の遺跡探訪のブックレットを作成しましたが、平成28年熊本地震の発生により、県内各地の施設が被災しました。

この度は、熊本の“今”を発信し、復旧が進む県内史跡を紹介するため、平成28年度に引き続き再度改訂することとしました。多くの方が、本書を片手に熊本と東京をつなぐ、文化と歴史の旅歩きを楽しんでいただければ幸いです。



肥後細川庭園 松聲閣

熊本藩細川家ゆかりの地で
時代に思いを巡らせる…。



東京都文京区にある熊本藩細川家の下屋敷跡に整備された肥後細川庭園。その敷地内に残る松聲閣（しょうせいかく）は、明治時代、細川家の学問所として使用され、一時期は細川家の住まいでもありました。この地は、江戸時代中期ごろから旗本の邸地となり、江戸末期には、徳川御三卿のひとつである清水家の下屋敷となり、その後、一橋家の下屋敷に転じ、幕末に熊本五十四万石の藩主細川越中守の下屋敷、抱屋敷となりました。

現在の建物は、大正時代に改修され、延べ床面積約500平方メートル、木造2階建ての建物で、1961（昭和36）年に公園となつてからは集会施設として広く活用されてきましたが、老朽化が進んだため、文京区が歴史性を残して保存、修復するとともに、耐震補強工事を実施し、2016（平成28）年1月16日から一般公開を開始しました。改修にあたっては、床の間に熊本県産のい草で作った特別な畳「龍鬚表（りゅうぶんおもて）」を使い、部屋ごとに「肥後六花」にちなんだ名称を付けるなど、より熊本色の濃い施設に生まれ変わりました。

さらに、熊本藩細川家の庭園としての成り立ちを尊重した名称とするため、新名称の募集が文京区によって行われました。千二百通を超える応募の中から、「肥後細川庭園」が選定され、2017（平成29）年3月より名称が変更されました。東京の地にまた一つ熊本らしい名称が生まれ、熊本との縁がさらに強まることが期待されています。

松聲閣から庭園を望んだその景色は、目の前に広がる池、永青文庫（6バ）に通じる左手の斜面林、雪見燈籠、十三重の塔など、明治から変わらぬ風情を楽しむことができ、また、江戸時代から品種改良を重ねられてきた希少な「肥後六花」のうち、肥後椿、肥後芍薬、肥後花菖蒲、肥後山茶花の4つを見ることができます。

毎年11月下旬になると、池畔にある松に雪吊りが施され、その綺麗に張

られた縄が傘型になった様子は、訪れる人の目を楽しませてくれます。



Information

開園時間
●松聲閣 9:00～17:00（※集会室利用は21:00まで）
9:00～17:00
●庭園 (2月～10月※ただし、入園は16:30まで)
9:00～16:30
(11月～1月 ※ただし、入園は16:00まで)

入園料 無料
休園日 12月28日～1月4日
【住所】文京区目白台1-1-22 肥後細川庭園
【アクセス】
東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅より徒歩15分
都電荒川線 早稲田駅より徒歩5分
文京区コミュニティバス B-ぐる
目白台一丁目下車徒歩5分
都営バス 早稲田下車徒歩5分
都営バス ホテル椿山荘東京前下車徒歩7分



▲肥後細川庭園紹介HP



肥後六花



肥後椿



肥後芍薬



肥後花菖蒲



肥後朝顔



肥後菊



肥後山茶花

肥後六花は肥後椿、肥後芍薬、肥後花菖蒲、肥後朝顔、肥後菊、肥後山茶花の六種の花の総称です。武士のたしなみや精神修養として始まったといわれ、一重咲きであること、花芯の美しさ、清らかな色を共通点とし、まさに武士の誇りを象徴するような花なのです。肥後六花にはそれぞれ保存団体が存在し、受け継がれています。



永青文庫

細川家に伝来する歴史資料や美術品に出合える。



江戸時代から戦後にかけてこの地に所在した細川家下屋敷跡の一隅に建つ永青文庫は、第16代当主、細川護立侯が、1950（昭和25）年に設立しました。約6千点の美術工芸品（国宝8点、重要文化財34点を含む）をはじめ、古文書や書籍など、およそ10万点もの史料を所蔵、研究し、1972（昭和47）年から一般公開をはじめ、1973（昭和48）年に博物館法による登録博物館となりました。その後、2010（平成22）年1月より公益財団法人に移行し現在に至っています。所蔵品は護立侯と17代当主護貞氏から寄付を受けたものであり、毎年春夏秋冬の季節ごとに美術工芸品を中心に公開展示されています。現在の建物は、旧細川侯爵家の家政所（事務所）として昭和初期に建設されたものです。また、永青文庫と松聲閣（4.5階）は、林の中を通り抜ける静かな散歩道につながっています。



Information

入館料（一部展覧会を除く）
一般：1,000円（団体10名以上は900円）
シニア（70歳以上）：800円（団体10名以上は700円）
大学・高校生：500円（団体10名以上は400円）
中学生以下：無料
※障害者手帳をご提示の方およびその介護者（1名）は無料
※別館サロンは別途200円（不定休）
開館時間 10:00～16:30（※ただし入館は16:00まで）
休館日 月曜日（祝日の場合は開館、翌火曜日が休館）、
展示替え期間、年末年始
【住所】文京区目白台1-1-1
【アクセス】
JR目白駅より都営バス新宿駅西口行き
目白台三丁目下車徒歩5分
東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅出口1aより徒歩15分
都電荒川線 早稲田駅より徒歩10分



和敬塾本館（旧細川侯爵邸）

チューダーゴシック様式の重厚な
外観と和洋折衷の室内生活空間。



和敬塾本館（旧細川侯爵邸）は細川家の下屋敷にあった敷地の一部に、1936（昭和11）年、細川護立侯の本邸として建設されました。イギリスのチューダーゴシック様式を基調とする洋風の外観を持ちながら、室内は和室や東洋風の凝ったインテリアを併せ持つ、この時代の特徴的な折衷デザインがみられる近代建築です。その歴史と文化的価値の重要性から、1998（平成10）年、東京都より有形文化財の指定を受けました。洋館と和館の並立であった以前の本邸から、鉄筋コンクリート造りの洋館単独型となり、部屋ごとにさまざまな意匠が凝らされた設計は、施主である護立侯自身の要望も取り入れられているといわれています。1956（昭和31）年、育英事業の場になされた環境としてこの地と本邸を購入した前川喜作は、男子学生寮の和敬塾を創設し、本邸を和敬塾本館としました。現在は、文化財として大切に保存されるとともに、塾生の知育、徳育の場として活用されています。

※原則、私有地につき和敬塾の敷地内は立ち入り禁止となっています。



Information

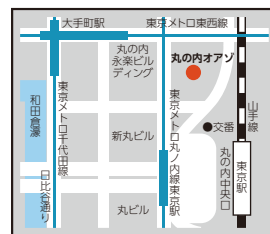
ガイド付きの見学会形式にて内覧可能
※開催日は月1、2回、原則木曜日
※全日程14:00集合、所要時間は1時間程度
※各回の定員は30名。定員に達し次第、受付を締め切ります。
※往復ハガキまたはメールでお申し込みください。
（詳しくは和敬塾本館HPをご覧ください。）
<http://www.wakei.org/honkan/>
入館料1,000円（消費税別）
【住所】文京区目白台1-21-2
【アクセス】
JR目白駅より都営バス新宿駅西口行き
目白台三丁目下車徒歩1分
東京メトロ有楽町線 江戸川橋駅より都営バス
練馬車庫行き 目白台三丁目下車
東京メトロ有楽町線 護国寺駅より徒歩10分

丸の内オアゾ（細川家上屋敷跡）

まるのうち
東京駅ビジネス街の足元にノスタルジー



ビジネスマンが行き交う東京丸の内は、江戸時代まで遡ると大名屋敷が立ち並んでいました。古地図によると、この場所一帯に明治まで続いた細川家の上屋敷があり、跡地である東京駅北口に建つ丸の内オアゾ（複合商業ビル）のエントランスホールの黒御影石の線刻には、細川家屋敷の柱、壁、扉などの配置が表されています。



Information
【住所】千代田区丸の内1-6-4
【アクセス】JR東京駅 丸の内北口地下通路より直結
東京メトロ東西線大手町駅 地下通路より直結
東京メトロ丸ノ内線東京駅 丸の内北口地下通路より直結

大石良雄外十六人忠烈の跡（細川家下屋敷跡）

おおいしよしかほかじゅうろくにんちゅうれつ
討ち入り後、大石良雄（内蔵助）ら赤穂浪士たちを預かった細川家



この地は、細川家下屋敷の一部でした。忠臣蔵で有名な吉良邸討入りを行った赤穂浪士四十六名のうち大石良雄ら十七人は、処罰が決まるまでの間にここに預けられ、細川家は預かった赤穂浪士たちを客人として厚遇したといわれます。処罰が決まると彼らはこの屋敷の庭で切腹しました。



Information
【住所】港区高輪2-11-16付近
【アクセス】都営地下鉄浅草線 泉岳寺駅A2出口より徒歩4分

ホテル雅叙園東京（細川家下屋敷跡）

がじよえん
時を経て、大きく姿を変えた細川家下屋敷跡地



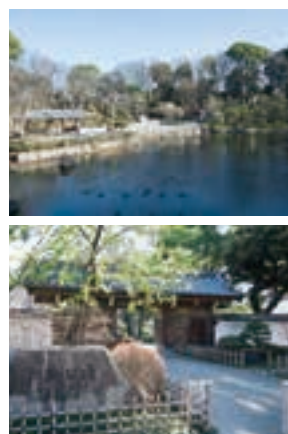
日本の伝統美に彩られた、唯一無二の空間が特徴のホテル雅叙園東京。江戸時代、このあたりに細川家の下屋敷がありました。その絢爛たる装飾を施された旧目黒雅叙園館内の様子は、「昭和の竜宮城」とも呼ばれ、ケヤキの板材で作られた現存する館内唯一の木造建築「百段階段」は東京都の有形文化財（建造物）に指定されています。



Information
【住所】目黒区下目黒1-8-1
【アクセス】目黒駅（JR山手線西口、東急目黒線、地下鉄南北線・三田線）より行人坂を下り徒歩3分

戸越公園（肥後新田藩細川家下屋敷跡）

とこしつえん
都内有数の由緒ある公園



戸越公園は、1662（寛文2）年、熊本藩の分家肥後新田藩主細川利重が下屋敷として拝領、その後本家の所有となり、1671（寛文11）年までに数寄屋造りと壮大な庭園からなる戸越屋敷として整備された下屋敷の一部です。茶会などを行う別荘風の邸宅であつたとされ、池を中心に丘陵、溪谷、滝を配した回遊式庭園は、東海道五十三次の庭ともいわれていました。（令和2年夏頃から令和5年度まで一部工事の予定）



Information
【住所】品川区豊町2-1-30
【アクセス】東急大井町線 戸越公園駅より徒歩7分
都営地下鉄浅草線 戸越駅より徒歩10分

細川家墓所

ほそかわ けぼしよ
細川家の菩提寺があつた場所に今も静かに眠る



提供:品川区教育委員会

現在、東京都の指定史跡となっている細川家の墓所付近は、細川家4代光尚が1643（寛永20）年に菩提寺として建立した妙解院があつた場所です。墓所には、6代宣紀、7代宗孝、8代重賢、11代斉樹、12代斉護、13代詔邦、14代護久の7人の藩主をはじめとする一族が眠っており、都内に残る大名家墓所としては、当時の姿を良好に留めています。



Information
【住所】品川区北品川3-11-17
【インフォ】墓所は原則非公開となっています。

細川家とくまもと

※(注 熊本地震後の状況については22、24頁参照)

水前寺成趣園(古今伝授の間)

熊本市中央区水前寺公園 8-1

加藤家以後、近世細川家の3代目、細川忠利が熊本城に入城し、初代藩主として肥後熊本を治めて以来、11代、およそ240年にわたり続いた熊本統治。歴史や文化など熊本の本殿様としてさまざまな功績を残しています。

二様の石垣(熊本城)

熊本市中央区本丸1-1



熊本城を訪れると、加藤家の桔梗紋や細川家の九曜紋が混在する瓦など、加藤家の築城と、細川家の増築・修復のそれぞれの歴史を発見することができます。中でも特に、天守閣を後ろに見る「二様の石垣」は絶好のポイント。勾配や石の積み方が違う、加藤・細川期のそれぞれで積み上げられた石垣を一目で見比べることができます。

加藤時代の石垣

下は緩やかだが、上へ行くほど勾配が急になっていて、石の積み方は大きさや形がバラバラの乱積。隅には方形の石が積まれています。

細川時代の石垣

加藤時代に比べ全体的に勾配が急。隅は長方形の石の短い方と長い方が交互に見えるように積み上げられた算木積みになっています。



水前寺成趣園内にある、「古今伝授の間」は、近世細川家初代細川藤孝(幽斎)により古今伝授が行われた智仁親王の学問所を大正時代に移築したものです。現在はこの場所で、お茶やお菓子が楽しめるようになっています。



花畑屋敷(花畑公園)

熊本市中央区花畑町 6

加藤清正が熊本城を築いた際に、この場所に広大な屋敷を設けました。庭にはさまざまな花木や草花が植えられていたため、「花畑屋敷」と呼ばれていました。細川忠利が初代熊本藩主として入国した後、ここを国許屋敷と定め、明治維新まで歴代藩主の生活の場として使用されていました。細川家の史料にも、「花畑御屋敷」や「御花畑」などの名で登場します。現在は一部が公園として整備されており、市民の憩いの場として利用されています。



泰勝寺跡(立田自然公園)

熊本市中央区黒髪 4-6-10



立田自然公園内、細川家の菩提寺泰勝寺跡。細川家初代藤孝(幽斎)夫妻と、2代忠興(三斎)とガラシャ夫妻を供養する「四つ御廟」があります。また、忠興好みの茶室の原図を基に作られた「仰松軒」もあり、ここにある手水鉢は豊臣秀吉や千利休も使用したものとして伝えられています。

旧砂取細川邸庭園(くまもと文学・歴史館)

熊本市中央区出水 2-5-1

明治7年に建てられた砂取邸と呼ばれる細川家の別邸に付属する庭園。熊本藩第10代藩主細川斎護の正室である顕光院(益姫)が、晩年にこの庭園を愛でながら過ごしました。阿蘇や白川中流域から伏流する清冽な湧水を生かした庭園で、飛び石の間には、ぶくぶくと水の湧く様子を身近に見ることが出来ます。隣接する敷地には細川忠興ゆかりの希首座の祠や熊本県立図書館、くまもと文学・歴史館があります。



妙解寺跡(北岡自然公園)

熊本市中央区横手 2-5-1



細川家4代光尚(2代熊本藩主)が、父である忠利の菩提を弔うために創建。忠利の戒名妙解院にもとづき御国山妙解寺と名付けられました。3代



忠利、正室(保寿院)、4代光尚の御霊屋、5代綱利、6代宣紀、7代宗孝、8代重賢、9代治年などの墓があります。

▶森鷗外著「阿部一族」で有名な阿部弥市右衛門の墓もあります。



新宿区立漱石山房記念館 (漱石山房跡)

数々の代表作が執筆された
夏目漱石終焉の地

そう せき さん ぼう

猫の墓



1907(明治40)年9月から1916(大正5)年に亡くなるまで過ごした「漱石山房」と呼ばれた家では、『三四郎』『それから』『こころ』といった代表作が執筆されました。また、「木曜会」には多くの門下生が集まりました。新宿区ではこの地に、漱石生誕150年にあたる2017(平成29)年、新宿区立漱石山房記念館を開館しました。記念館には、漱石山房の一部を再現するとともに、文学館としての基本的な機能を備えています。また、来館者が漱石作品や関連図書に触れることができる図書室、ブックカフェやミュージアムショップも設置しています。

隣接する新宿区立漱石公園には、富永直樹作の漱石の胸像や「猫の墓」があり、四季折々の植栽も楽しめます。



夏目坂

夏目漱石誕生の地の目の前の坂は「夏目坂」と呼ばれています。漱石の父で、この辺りの名主であった夏目小兵衛直克が、自分の姓を名付けて呼んでいたものが人々に広まったとされています。



Information

開館時間
10:00~18:00
(入場は17時30分まで)
【住所】新宿区早稲田南町7
【アクセス】東京メトロ東西線
早稲田駅1番出口より徒歩10分
都営大江戸線牛込柳町駅東口
より徒歩15分
都営バス(白61)
牛込保健センター前下車徒歩2分



三四郎池 (育徳園心字池)

変わりゆく時代の中で
変わらぬ憩いの景色

1615(元和元)年の大坂夏の陣のあと、加賀藩前田家は現在の東京大学(本郷キャンパスの一部)とその周辺を拝領し、1638(寛永15)年、3代加賀藩主前田利常が園池を築造しました。池の形が「心」という字をかたどっていたことから正式名称は「育徳園心字池」といいますが、漱石の名作『三四郎』がここを舞台としたため「三四郎池」と呼ばれるようになりました。



夏目漱石誕生の地 文豪夏目漱石はこの地に産声をあげた



1966(昭和41)年、漱石生誕100年を記念して、夏目坂を登りかけたすぐ左手に「夏目漱石誕生之地」と刻まれた黒御影石の記念碑が建てられました。文字は遺弟子である安倍能成によるものです。漱石は父夏目小兵衛直克と母千枝の六人兄妹の末子として生まれました。夏目家は、江戸時代には周辺の11カ町をまとめる名主で、喜久井町の名は夏目家の家紋「井桁に菊」にちなんでつけられました。



Information

大学構内であることをご理解のうえ、散策の際にはご配慮ください。
【住所】文京区本郷7-3-1
【アクセス】東京メトロ丸ノ内線 都営地下鉄大江戸線
本郷三丁目駅より徒歩7分
東京メトロ南北線 東大前駅より徒歩10分



Information

【住所】新宿区喜久井町1
【アクセス】東京メトロ東西線
早稲田駅より徒歩5分

小泉八雲記念公園

日本人より日本を愛した小泉八雲

明治の文学者・作家、小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）はギリシャ・レフカダ島に生まれ、現在の新宿区大久保でこの世を去りました。新宿区とレフカダ市は平成元年に友好都市となり、1993（平成5）年に小泉八雲記念公園をつくりました。公園はギリシャ風の造りになっています。八雲は、1890（明治23）年にアメリカの出版社の記者として来日し、その後記者を辞め、松江や熊本で教鞭をとりました。



1896（明治29）年、日本に帰化して以来、東京大学、早稲田大学で英文学を講じながら、「怪談」「骨董」など多くの作品を執筆しました。1902（明治35）年からこの地に住み、1904（明治37）年、妻子の身を案じ、自らの仕事のことを気にしながら、「ああ、病気のため……」という悲愴な言葉を残し、54歳で帰らぬ人となりました。



大久保小学校前には小泉八雲終焉の地の碑が残っている



Information
開園時間 8:00～18:00(4月～9月)
8:00～17:00(10月～3月)
【住所】新宿区大久保1-7
【アクセス】東京メトロ副都心線
都営大江戸線 東新宿駅より徒歩5分

嘉納治五郎

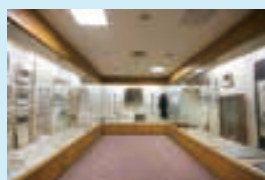
小泉八雲を熊本駅で出迎えた嘉納治五郎校長

1891（明治24）年、第五高等中学校（現 熊本大学）の校長に就任した嘉納治五郎は、小泉八雲を教師として熊本に招きました。八雲は、柔道の創始者嘉納治五郎の「逆らわずして勝つ」という柔道精神に感銘を受け、欧米へ広く紹介し、日本柔道の国際化にも大きく貢献しました。嘉納治五郎は、日本の学校教育の充実、体育・スポーツの発展に大きく貢献しました。

Information
占春園
開園時間 8:00～17:00
(4～9月は19:00まで)
【住所】文京区大塚3-29
【アクセス】東京メトロ丸ノ内線
茗荷谷駅1番出口より徒歩5分



Information
写真の嘉納治五郎の銅像は、「講道館」の入口横に建っています。
●講道館 柔道資料館
開館時間 10:00～17:00
休館日 土日祝 夏季休暇期間 年末年始
入館料 無料
【住所】文京区春日1-16-30
【アクセス】都営地下鉄三田線
大江戸線春日駅A1またはA2出口より徒歩1分
東京メトロ南北線 後楽園駅6番出口より徒歩3分
東京メトロ丸の内線 後楽園駅3番出口より徒歩3分
JR総武線 水道橋駅より徒歩8分



資料提供／公益財団法人 講道館

嘉納治五郎と講道館
柔道を世界へ、オリンピック招致への情熱を燃やした「日本体育の父」
1882（明治15）年、講道館柔道を創設した嘉納治五郎は、柔道を通して、人格形成を目指し、「精力善用 自他共栄」の理念を提唱して、柔道普及のために自ら世界を飛び回りました。
1909（明治42）年には日本人初の国際オリンピック委員会（IOC）委員に就任し、招致運動を行いました。また、1912（大正元）年のスウェーデン・ストックホルム大会に日本選手団長として参加しました。今や柔道は世界200カ国以上に広まり、嘉納治五郎の名は世界に知られています。

校長を務めた東京高等師範学校内にあった「占春園」に建っている像

雑司ヶ谷霊園

沢山の著名人が緑に囲まれて静かに眠る霊園



夏目漱石の墓

※霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします。



小泉八雲の墓

都立の公営霊園「雑司ヶ谷霊園」には、夏目漱石と小泉八雲のお墓があります。緑豊かな雑司ヶ谷霊園は、明治7年開設と古く、8カ所ある都立霊園の中でも特に文学者や芸術家など歴史上の著名人のお墓が多くあります。漱石のお墓は高さ約3m、幅・奥行きとも約2mの白い大きな墓石で、戒名は「文獻院古道漱石居士」。八雲のお墓は高さ約1.5m、敷石の幅・奥行きが約1mで「正覚院殿浄華八雲居士」の戒名が記されています。

漱石の墓は霊園のほぼ中央に位置し、肘掛け椅子を模したユニークな墓石の形が有名で、時代を経ても人気の衰えない作品が新たなファンを増やし、沢山のお墓参りの人が訪れています。漱石の小説「こころ」では、雑司ヶ谷霊園のことが描かれています。

雑司ヶ谷霊園は、落ち着いた雰囲気の中で、そこに眠る偉人たちの波乱万丈な人生に触れることのできる希有な霊園となっています。



Information

管理事務所および納骨堂の休日

年末年始(12月29日～1月3日)

管理事務所窓口の開所時間8:30～17:15

崇相堂の開所時間9:00～16:30

【住所】豊島区南池袋4-25-1

【アクセス】

地下鉄有楽町線 東池袋駅より徒歩10分

地下鉄副都心線 雑司ヶ谷駅より徒歩10分

JR池袋駅東口より徒歩15分

JR大塚駅前から都電 都電雑司ヶ谷駅より徒歩5分

雪女の縁の地

ゆきおんな

「怪談」のものは、八雲が妻セツから聞いた怪奇伝説や幽霊話だった



八雲の著書「怪談」は日本各地に伝わる怪談を物語としてまとめたもので、序文に「雪女」というこの奇妙な物語は、武蔵の国、西多摩郡、調布の百姓が自分の生まれた村の伝説」とあることから、舞台が青梅にあった調布村であると類推され、2002(平成14)年に調布橋のたもとに雪女の碑が建てられました。碑の裏には八雲のレリーフと序文が記されています。



Information

【住所】青梅市千ヶ瀬町5丁目

【アクセス】JR青梅線 青梅駅より徒歩15分

漱石とくまもと

※(注)熊本地震後の状況については22頁参照

峠の茶屋

熊本市西区河内町5-4

1896(明治29)年、夏目漱石は第五高等学校(現 熊本大学)に英語教師として赴任し、4年3カ月にわたって教鞭をとりました。熊本では、寺田寅彦をはじめ、後々まで、交流が続く生徒たちと知りあい、多くの俳句を作り、後に発表する小説「草枕」や「二百十日」の舞台となる地へ旅をしました。

夏目漱石内坪井旧居

熊本市中央区内坪井町4-22

漱石は熊本に住んでいた間に6回転居しています。内坪井旧居は、5番目に住んだ家であり、1年8カ月を過ごしました。漱石にとって、鏡子夫人と暮らし、長女筆子が誕生した思い出の家です。産湯として使った井戸が今も残っていますが、現在は復旧工事で休館中です。



1897(明治30)年、漱石は正月の年始客の多さにうんざりして、同僚の山川信次郎とともに小天(おあま)温泉(現 玉名市)へ出掛けます。その旅を題材とした小説が「草枕」です。「おい」と声を掛けたが返事がないのくだりで知られる峠の茶屋のモデルは、鳥越峠と野出峠にあった茶屋のどちらかだといわれています。現在はいずれも碑が建てられており、鳥越の茶屋の近くにかやぶきの茶屋資料館があります。

石畳

「草枕の道」の大半が1897(明治30)年当時、熊本と高瀬(現 玉名市)を結ぶ往還でした。その途中に現れる石畳の道は、当時の面影を残しています。竹林に囲まれ、こけむした石畳に佇めば、漱石の足音が聞こえてきそうです。



前田家別邸

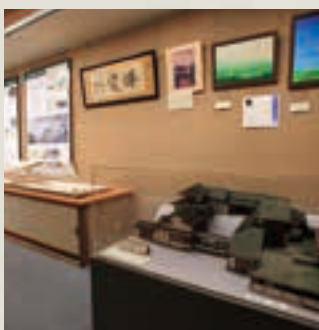
玉名市天水町小天76613



漱石が小天で逗留したのは、天水町小天の郷土前田家山子(かがし)の別邸でした。小説「草枕」はここでのエピソードを元に書かれています。作中で、前田家別邸は「那古井の宿」、前田家は「志保田家」として登場します。そしてこの場所で出会った女性「ツナさん」(案山子の次女)を物語のヒロイン「那美さん」としています。特に印象深い浴場のシーンも別邸での実体験を元に書かれています。現在は漱石が宿泊した離れと浴場が残っています。

草枕交流館

玉名市天水町小天73511



小説「草枕」に関する歴史資料館・観光案内施設。資料やパネル、映像などで夏目漱石や「草枕」の背景、前田家の歴史などが紹介されています。

八雲(ラフカディオ・ハーン)とくまもと

※(注)熊本地震後の状況については22・24頁参照

第五高等学校(現 熊本大学)の校長であった嘉納治五郎の招きで、1891(明治24)年英語教師として熊本に赴任し、3年余り教鞭をとりました。校舎の北側にある立田山で巡らせた思いを綴った「石仏」や三角港(現 宇城市)の宿屋浦島屋での出来事を綴った「夏の日の夢」など、熊本での経験を題材にした作品を執筆しました。熊本を離れた翌年、ハーンは日本に帰化し、小泉八雲と改名しました。



小泉八雲熊本旧居

熊本市中央区安政町2-6

熊本で最初の1年を過ごした住居。第五高等学校の校内には外国人宿舎がありましたが、日本間がないという理由で手取本町の家を借りました。この家に残されている神棚は、八雲のたつての願いで設けられ、毎朝、欠かさず拍手を打って拝んでいました。



小峯墓地の石仏

熊本市中央区黒髪4-10

熊本大学の北、立田山の山頂にあり、ある小峯墓地に一体の石仏があり、鼻が欠けていることから「鼻かけ地藏」と呼ばれています。八雲はこの石仏が大層気に入っており、よくここを訪れていました。



旧第五高等学校本館(現 熊本大学五高記念館)

熊本市中央区黒髪2-40-1

八雲は1891(明治24)年から3年間、外国人教師として英語とラテン語を担当しました。秋月胤永(かずひさ)ら教師と交流し、熊本の風土と純真素朴な生徒たちに親近感を抱き、「九州の学生」という演説を行いました。建物は、1887(明治20)年に開校した第五高等学校の本館で、1889(明治22)年に完成しました。現在は国の重要文化財に指定されています。



浦島屋(三角西港)

宇城市三角町三角浦1230-25 (三角西港公園内)

1893(明治26)年7月22日、長崎旅行からの帰路で立ち寄った旅館で、「夏の日の夢」の舞台となりました。八雲は浦島屋のことを「極楽」といい、女中さんを「天女」、女将さんは「風鈴のような涼しい声」と表しています。よほど浦島屋の雰囲気良かったのでしょう。浦島屋はその後、1905(明治38)年に解体され中国の大連に運ばれます。1993(平成5)年に写真を元に復元。現在は、休憩スペースやイベント会場として利用されています。



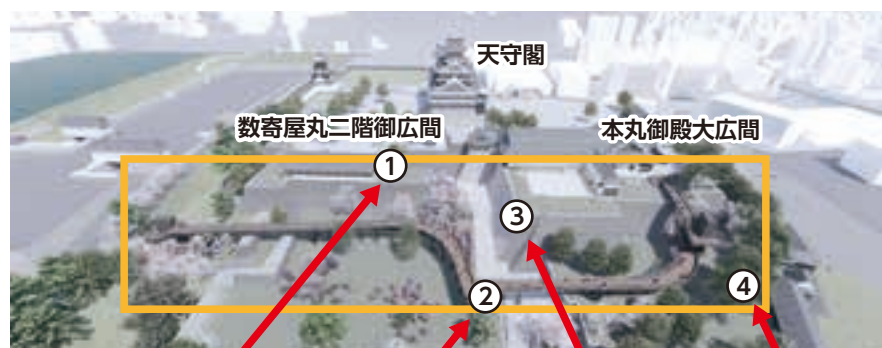
Information

熊本城の現在の状況や特別公開について詳しくはこちら。



熊本城公式ホームページ

2020年春特別見学通路完成(特別公開第2弾)

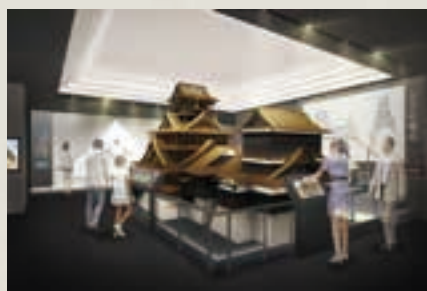


★主な見どころ



①数寄屋丸二階御広間 ②連続外枳形と石垣 ③二様の石垣 ④重要文化財櫓群

2021年春 天守閣完全復旧・内部公開予定(特別公開第3弾)



熊本城天守軸組模型



大天守からの展望

復興に向かう熊本城

熊本城は、熊本地震により大きな被害を受け、現在多くの部分に立ち入ることができません。しかし、2019年秋、ついに大天守の外観が復旧し、特別公開第1弾が始まりました。2020年春には、特別見学通路が完成し、復旧工事の様子などを間近に見ることができるよう特別公開第2弾がスタート。

平成28年4月14日と16日の二度にわたり、かつて経験したことのない震度7の地震が熊本を襲い、この地震により多くの尊い命が失われました。また、県内各地の文化財も被害を受けました。熊本城をはじめ、細川家や夏目漱石、小泉八雲ゆかりの地も、いまだ、見学できない施設もあります。しかし少しずつですが着実に、復旧に向けて進んでいます。



山腹崩壊(南阿蘇村立野)



道路損壊(西原村)

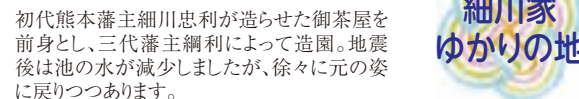


阿蘇神社



旧細川刑部邸

細川刑部邸は、初代熊本藩主細川忠利の弟、興孝が祖となって始まった一門で東子飼町に建てられた別荘を移築、復元したもの。地震からの復旧のため休館中です。(写真は震災前)



細川家
ゆかりの地



水前寺成趣園



泰勝寺跡(立田自然公園)

細川家菩提寺。細川藤孝夫妻や忠興、妻ガラシャなどが眠ります。宮本武蔵の供養塔もあります。通常公開中。



妙解寺跡(北岡自然公園)

細川家菩提寺。二代熊本藩主光尚建立。忠利夫妻や光尚など歴代藩主が眠ります。通常公開中。



ジェーンズ邸

熊本藩知事細川護久が熊本洋学校を開設した際、教師として招かれたジェーンズの住居として建てられました。熊本地震で倒壊したため、休館中。(写真は震災前)

銀座熊本館

<http://www.kumamotokan.or.jp/>

「銀座熊本館」は首都圏における熊本の情報発信拠点。1994年(平成6年)開業の老舗アンテナショップです。

◆1階「くまもとプラザ」

熊本から毎日届く新鮮野菜や果物、郷土のお菓子や農畜水産加工品など、常時約1500品目を取り揃えています。また、多彩なテーマで概ね2週間ごとに開催するフェアでは、特別な商品をご紹介します。



◆2階「ASOBI・Bar」

馬刺しや辛子れんこんなどの郷土料理が楽しめます。また、米を原料とした「球磨焼酎」の全28蔵の主要銘柄を揃えており、さまざまな味と香りの飲み比べが楽しめます。



◆2階「観光情報コーナー」

県内各地のパンフ、チラシを設置して、観光コンシェルジュが観光地や旬のイベント情報をご案内しています。旅行計画のお手伝いもしますので、気軽にお立ち寄りください。



INFORMATION

【住所】東京都中央区銀座5丁目3-16

【電話】1階店舗 03-3572-1147
2階ASOBI・Bar 03-3572-1261

【営業】1階店舗、観光情報コーナー 11:00~20:00
2階ASOBI・Bar

カフェタイム(火~金) 13:00~16:00
(土) 12:00~17:00

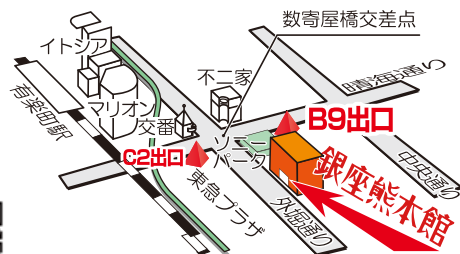
パーティタイム(火~金) 17:00~20:00

【定休日】毎週月曜(祝日の場合は翌平日)

【アクセス】

東京メトロ銀座駅 B9出口より徒歩1分

JR有楽町駅 数寄屋橋方面出口より徒歩5分



夏目漱石大江旧居



漱石が熊本で3番目に住んだ家。約半年間過ごしました。平成28年度の夏目漱石生誕150年、来熊120年、没後100年を記念し、内部を特別に公開中。

熊本大学五高記念館



かつてこの地にあった第五高等学校(後の第五高等学校)では、嘉納治五郎が校長を務め、八雲、漱石が教鞭をとりました。熊本地震の被害により休館中ですが、大学構内には表門(赤門)、八雲のレリーフ・碑、漱石の像や碑があります。

施設状況と問い合わせ先 (R2年4月現在)

施設名	状況	問い合わせ
熊本城	一部特別公開	096-352-5900
旧細川刑部邸	休園	096-352-5900
泰勝寺跡(立田自然公園)	通常公開	096-344-6753
妙解寺跡(北岡自然公園)	通常公開	096-356-8005
熊本洋学校教師ジェーンズ邸	休館	096-328-2039
夏目漱石内坪井旧居	休館	096-328-2039
夏目漱石大江旧居	通常公開	096-385-2266
小泉八雲熊本旧居	通常公開	096-354-7842
熊本大学五高記念館	休館	096-342-2050
草枕交流館/前田家別邸	通常公開	0968-82-4511

※夏目漱石北千反畑旧居もありますが、一般住宅のため非公開

夏目漱石内坪井旧居



鏡子夫人が「熊本で過ごした家の中で1番いい家だった」と語ったといわれています。現在、熊本地震の影響で休館中。

小泉八雲熊本旧居



八雲が熊本での最初の1年を過ごした旧居家。地震の被害を受けましたが、復旧し、通常公開中。

上熊本駅



夏目漱石が来熊した際に降り立った場所。小泉八雲の「停車場にて」はこの駅での出来事を題材としています。建物は現在、市電の停留所になっています。



漱石来熊100年を記念して、平成8年に上熊本駅と坪井方面を結ぶ通りが「わが輩通り」と名付けられました。

わが輩通り



熊本地震後の漱石・八雲ゆかりの地

文京区

- 1 肥後細川庭園
松聲閣
- 1 永青文庫
- 1 和敬塾本館
(旧細川侯爵邸)
- 2 三四郎池
(育徳園心字池)
- 3 嘉納治五郎の銅像(占春園)
- 4 嘉納治五郎の銅像(講道館)



新宿区

- 5 夏目漱石誕生の地
- 5 夏目坂
- 6 新宿区立
漱石山房記念館
(漱石山房跡)
- 7 小泉八雲記念公園



東京広域MAP



- 8 丸の内オアゾ
(細川家上屋敷跡)
- 9 大石良雄外十六人
忠烈の跡
(細川家下屋敷跡)
- 10 ホテル雅叙園東京
(細川家下屋敷跡)
- 11 戸越公園
(肥後新田藩細川家下屋敷跡)
- 12 品川神社と細川家墓所
- 13 雑司ヶ谷霊園
- 15 銀座熊本館